

感染症研究の新たなステージ ウイルス学的検査の実践と 国内BSL3施設の活用

2026年1月29日木 15時～16時



講演 1 臨床研究におけるウイルス学的検査の意義 インフルエンザおよびSARS-CoV-2での経験

感染症は病原体と宿主の戦いにより生じている。感染症の研究においては、この両者を詳細に研究することにより発展していくと考えられる。インフルエンザとCOVID-19の臨床研究において、患者から分離されたウイルスおよび異なる時期に採取された血清を用いて様々な測定を実施することにより、多くの知見を得ることが出来た。本ウェビナーでは、これまでの経験を紹介したい。

日本臨床内科医会インフルエンザ研究班
株式会社リチャードクリニカ 顧問

池松秀之 先生

主な専門分野
ウイルス感染症、免疫学、高齢者医療

ご略歴

1982年	九州大学医学部卒業、第一内科入局
1989年～	NIH、ニューヨーク大学医学部、コーネル大学医学部などに留学
1999年	原土井病院臨床研究部 部長
2011年	九州大学先端医療イノベーションセンター 臨床試験部門長 ・特任教授
2014年	株式会社リチャードクリニカ 代表取締役

主な受賞歴

2020年	日本感染症学会二木賞受賞
-------	--------------

講演 2 感染症関連試験のご紹介～BSL3施設稼働のご案内～

メディフォード株式会社 治験事業部 医薬品分析部 後藤聖樹

メディフォード株式会社は、昨年7月に厚生労働省の創薬クラスター・キャンパス整備事業（創薬支援施設整備事業）に採択され、その一部として、熊本研究所内にIn VitroのBSL3施設を稼働予定である。弊社では、これまでスタンダード法のないウイルス培養を伴う試験系の構築やトレース試験を信頼性基準で実施し、多くの治験や臨床研究を支援してきたが、BSL3施設の稼働により、今まで取り扱いが出来なかった病原体を用いた試験も可能となった。本ウェビナーでは、稼働予定のBSL3施設や対応可能な試験について紹介する。

お申込みはこちら



https://pages.mediford.com/EV-MDF_20260129_registration_s8z03q.html



お問い合わせ

メディフォード株式会社 ウェビナー事務局

medf-dds-ddsso@gg.mediford.com

〒174-0053 東京都板橋区清水町 36 番 1 号